

大型クラゲの出現状況(国際フェリー調査結果等)について-第3報-

1. 大型クラゲの出現情報

(1) 東シナ海における調査船による目視調査結果※¹

① 実施期間 令和8年6月18日～25日

結果 東シナ海西部の10地点での出現量(平均密度) 0.14 個体/ 100m^2 。

〔 昨年同時期の結果 (0.003 個体/ 100m^2) よりかなり多い。 〕

(2) 対馬海峡における国際フェリー(博多-釜山航路)による目視調査結果※¹

① 実施期間 令和8年6月16日

結果 対馬海峡では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(6月18日、西水道で 0.0002 個体/ 100m^2 の出現)より、出現時期は遅い。 〕

② 実施期間 令和8年6月30日

結果 対馬海峡西水道で9個体(傘径 $40\sim70\text{cm}$)、東水道で4個体(傘径 $50\sim60\text{cm}$)を目撃した。出現量(平均密度)は西水道で 0.00097 個体/ 100m^2 、東水道で 0.00018 個体/ 100m^2 。

〔 昨年同時期の結果(7月1日に対馬海峡で目撃されなかった)より出現量は多い。 〕

③ 実施期間 令和8年7月14日

結果 対馬海峡西水道で39個体(傘径 $30\sim80\text{cm}$)、東水道で51個体(傘径 $20\sim80\text{cm}$)を目撃した。出現量(平均密度)は西水道で 0.00456 個体/ 100m^2 、東水道で 0.00231 個体/ 100m^2 。

〔 昨年同時期の結果(対馬海峡での出現量: 西水道25個体、 0.0028 個体/ 100m^2 、東水道29個体、 0.0013 個体/ 100m^2)より出現量は多い。 〕

④ 実施期間 令和8年7月28日

結果 対馬海峡西水道で6個体(傘径 $30\sim50\text{cm}$)を目撃した。出現量(平均密度)は 0.00062 個体/ 100m^2 。

〔 昨年同時期の結果(対馬海峡での出現量: 西水道24個体、 0.0030 個体/ 100m^2 、東水道8個体、 0.00036 個体/ 100m^2)より出現量は少ない。 〕

⑤ 実施期間 令和8年8月18日

結果 対馬海峡西水道で12個体(傘径30～60cm)、東水道で3個体(傘径40cm)を目撃した。出現量(平均密度)は西水道で0.0013個体/100m²、東水道で0.00014個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(8月19日、対馬海峡の出現量:0個体)より出現量が多い。 〕

⑥ 実施期間 令和8年9月1日

結果 対馬海峡西水道で2個体(傘径20～30cm)を目撃した。出現量(平均密度)は0.00023個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(9月2日、対馬海峡での出現量:0個体)より出現量が多い。 〕

※1. 国立研究開発法人水産研究・教育機構及び国立大学法人長崎大学、学校法人東海大学により構成される「大型クラゲ国際共同調査共同研究機関」が実施。

(3) 日本海北東海域におけるフェリー(小樽―舞鶴航路)による目視調査結果^{※2}

① 実施期間 令和8年9月15日

結果 日本海北東海域では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(9月25日、日本海北東海域では目撃されなかった)と同じ。 〕

② 実施期間 令和8年10月6日

結果 日本海北東海域では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(10月7日、日本海北東海域では目撃されなかった)と同じ。 〕

※2. NPO 法人水産業・漁村活性化推進機構の委託を受けて、国立研究開発法人水産研究・教育機構が行った目視調査の結果による。

(4) 東シナ海から日本沿岸水域における出現の確認^{※3}

- ・令和8年4月26日から6月12日にかけて、東シナ海において2～200個体程度の出現を確認した。6月21日には、対馬西沖で出現を確認した(1個体、傘径25～30cm)。
- ・令和8年6月25日には、長崎県対馬市美津島町の定置網で出現を初めて確認した(1個体、傘径35cm)。
- ・令和8年6月28日には、東シナ海において、5個体の出現を確認した(傘径40～60cm)。
- ・令和8年6月29日には、長崎県対馬市上対馬町の定置網で出現を確認した(1個体、傘径40cm)。
- ・令和8年7月6日から9日の期間において、長崎県対馬市上対馬町(1個体、傘径40cm)・長崎県対馬市美津島町(10個体、傘径40cm)、長崎県対馬市厳原町(5個体、傘径30～40cm)の定置網で出現を確認した
- ・令和8年7月10日には、長崎県対馬市厳原町の定置網で出現を確認した(1個体、傘径30cm)ほか、島根県の定置網で出現を初めて確認した(1個体、傘径40cm)
- ・令和8年7月14日及び21日には、長崎県対馬市美津島町の定置網で出現を確認した(4個

体、傘径40cm及び10個体、傘径30cm)。

- ・令和8年7月28日から8月1日には東シナ海の底びき網で10～100個体(傘径20～50cm)、7月29日には対馬東岸の洋上調査で27個体(傘径20～50cm)を確認した。
- ・令和8年7月31日から8月3日には、長崎県対馬市豆酩崎の定置網で出現を確認した(10～50個体、傘径30～100cm)。
- ・令和8年8月2日から5日には対馬西方海域の旋網で大量の出現を確認した(10～300個体、傘径40～100cm)。8月16日から24日には、対馬北側～東側及び対馬西方沖の沖合底びき網で大量入網があり、1操業当たり200個体、複数隻・複数操業の合計で1,600個体とする報告があった。
- ・令和8年8月1日から30日には山口県沖で、目視、定置網、旋網及び小型底びき網により断続的に出現を確認した(1～10個体、傘径30～120cm)。
- ・令和8年8月16日から9月14日には、島根県浜田市、松江市、出雲市及び隠岐諸島の定置網等で、断続的に出現を確認した(1～3個体、傘径30～80cm)。隠岐諸島では8月25日に10～30個体(傘径30～40cm)を確認した。
- ・令和8年8月19日から31日には兵庫県沖の調査トロール及び目視調査で出現を確認した(1～8個体、傘径15～90cm)。9月以降の兵庫県沖の底びき網では、おおむね0～3個体を確認し、9月30日には1～2個体(傘径40cm)を確認した。
- ・令和8年8月24日から9月26日には京都府の大型定置網で断続的に出現を確認した(各1個体、傘径50～100cm)。
- ・令和8年9月1日から3日には福井県沖の底びき網で出現を確認した(1～3個体、傘径60～70cm)。
- ・令和8年8月13日から9月22日にかけて、石川県の定置網と底びき網で断続的に出現を確認した(1～2個体、傘径70～80cm)。
- ・令和8年9月上旬には中西部日本海の底びき網で1～4個体程度の出現が続き、9月7日に30～40個体(傘径40～120cm)を確認した。その後はおおむね0～5個体に減少した。
- ・令和8年9月18日には岩手県沿岸の定置網で1個体を初めて確認した。
- ・令和8年9月23日及び30日には秋田県沖の底びき網で(各1個体、傘径80cm)、9月30日には秋田県沿岸の定置網で出現を確認した(1個体、傘径50～60cm)。
- ・令和8年10月5日から6日には兵庫県沖の調査トロール(各1個体、傘径33～70cm)、10月6日から7日には対馬海峡の底びき網で出現を確認した(1～2個体、傘径40～80cm)。
- ・令和8年10月10日に岩手県の定置網で出現が確認された(2個体、傘径50～100cm以上)。

※3. NPO 法人水産業・漁村活性化推進機構の委託を受けて、一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた情報、及び国立研究開発法人水産研究・教育機構の調査船調査の結果による。

2. 出現動向の概要

東シナ海における調査船による目視調査の6月出現量は昨年よりもかなり多く、日本周辺で中規模程度の出現であった一昨年の同調査結果に比べても多い状況です。対馬海峡(博多～釜山間)における国際フェリー目視調査では、6月中旬には出現は確認できませんでしたが、6月下旬の調

査では、対馬海峡西水道で9個体、東水道で4個体を確認し、7月中旬の調査では、対馬海峡西水道で39個体、東水道で51個体を確認し、昨年同期よりも多い出現を確認しました。その後、7月下旬の調査では、対馬海峡西水道で6個体のみの確認となり、8月中旬の調査では、対馬海峡西水道で12個体、東水道で3個体、9月上旬の調査では、対馬海峡西水道で2個体の出現となりました。日本海北東海域（小樽～舞鶴間）におけるフェリー目視調査では、9月中旬から10月上旬に出現は認められず、出現が収束に向かっていることを確認しました。また、日本沿岸水域においては、6月21日に対馬西沖、6月25日に対馬東側沿岸の地先で1個体ずつ確認され、6月29日に対馬北部で1個体の出現が確認されて以降、対馬沿岸で断続的に出現が確認されました。7月10日には島根県で1個体の出現が確認されて以降、7月中旬から8月にかけて島根県沿岸から分布が東方に広がり、8月中旬から9月下旬にかけて、京都府、石川県、秋田県、岩手県沿岸でも少数の出現が認められました。10月上旬にも対馬海峡から日本海中西部に散発的に出現が認められ、10月10日には岩手県で出現が認められました。なお、今年の特徴として、8月下旬までの対馬から山陰沖の底びき網に、大型の個体が多量に入網し（100個体以上、傘径70～150cm程度）、表層ではなく、中下層にまとまった分布が認められました。韓国においては、東シナ海北部（済州島周辺）では、5月下旬に過去10年間で最も多い大型クラゲの出現が確認されていますが、韓国沿岸の出現状況は5月上旬から10月上旬まで例年並みで、出現率は低い傾向です。以上のことから、6月下旬以降、韓国に近い対馬海峡西水道と九州に近い対馬海峡東水道の両方向から日本海へ少量の大型クラゲの流入が始まり、対馬海峡西水道から流入した大型クラゲの多くは日本海の沖合域の中下層を北上し、日本沿岸にはほとんど接近しなかったと考えられますが、対馬海峡東水道から流入した大型クラゲの一部は日本沿岸に沿って東に輸送されたと考えられます。観測結果では、8月13日に石川県、9月18日に岩手県で初確認が認められたことから、8月下旬～9月上旬に津軽海峡に到達したと考えられます。今後も日本沿岸に沿って輸送されるものの、能登半島以東、以北の沿岸域においては小規模、散発的な出現にとどまると考えられます。

本件照会先（担当者）：

本部 研究戦略部 清水・日下 TEL 045-277-0257

水産資源研究所 水産資源研究センター 海洋環境部 西内 TEL 095-860-1665